

# ふれあい名古屋



スマイルサポート

地域の団体と連携して  
生活の困り事の支援へ  
(中村区社会福祉協議会)

←害虫駆除で協力  
(有限会社森山環境科学研究所)



ふとんの提供で協力  
(ふとん屋万与) →



【特集】福祉クローズアップ

## 複合的な課題を抱える人々を関係機関と協働して支援 「重層的支援体制整備事業」が4月からスタート

### CONTENTS

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 活動最前線 南区社会福祉協議会                         | 4  |
| 想いをつなぐリレートーク / ながら体操                    | 5  |
| ほっとはあとコーナー                              | 6  |
| ● 旬ボラに行く！<br>まちが輝き、わたしも輝く！～映像制作で名古屋に貢献～ |    |
| ● ボランティア・NPOウォッチング                      |    |
| ● きらっとボランティア・NPOらいぶ                     |    |
| ● 地区のオススメのボランティア                        |    |
| からだに優しいいきいきレシピ / プレゼントつきクイズ             | 10 |
| インフォメーション                               | 11 |
| ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介                        | 12 |

今回の特集は、  
中村区社会福祉協議会の  
包括的相談支援チームの  
皆さんにお話を  
伺いました。  
関連記事：2・3ページ



な～や

特集：福祉クローズアップ



左から  
名古屋市中村区社会福祉協議会  
主事 竹田奈穂子さん  
事務局次長 村田敏明さん  
包括的相談支援スタッフ  
貞末裕香さん

# 複合的な課題を抱える人々を 関係機関と協働して支援 「重層的支援体制整備事業」が 4月からスタート

名古屋市では、令和4年4月から「重層的支援体制整備事業（以下、重層事業という。）」のモデル実施が始まります。重層事業は、令和2年の社会福祉法改正により、市町村における包括的な支援体制の構築を推進するため、創設された事業です。

近年、個人や世帯が抱える生きづらさやリスクが複雑化・多様化しており、従来の分野別（子ども、高齢者、障がい者など）の相談窓口では対応が難しい、困っているにも関わらず支援の手が行き届かない「制度の狭間の問題」や高齢の親がひきこもっている中高年の子の生活を支える8050問題など「複合的な課題」を抱えた世帯が増えています。

重層事業は、既存の枠組みを超えて、①断らない相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援の3つの支援を一体的に行うことで、こうした新たなニーズに応えようとしています。

名古屋市では、まずは北区・西区・中村区・南区の4区に「包括的相談支援チーム」を配置してモデル実施を開始し、令和6年度には全区での本格実施を予定しています。

そこで今回は、令和3年10月から準備を進めてきた中村区社協の職員に重層事業の取り組みについて伺いました。

## これまで築いてきた地域との関係性を生かす

中村区社協では、新たに「包括的相談支援チーム」を配置し、多機関協働事業、アウトリーチ事業、参加支援事業に取り組んでいます。

「多機関協働事業」は、単独の相談支援機関などでは対応できない複合的な課題などを抱えるケースを、区役所や各分野の相談支援機関（いきいき支援センターや障害者基幹相談支援センターなど）、地域関係者（民生委員や町内会長、ボランティアなど）といっしょに支援を行っていくもので、包括的相談支援チームが多機関協働の中核的な役割を担っています。

各相談支援機関が相談を受けても、複雑化、

複合化した内容で対応できない場合は、包括的相談支援チームに連絡をしてもらうことで、各機関とのコーディネート、話し合いを行い、支援の方法を探っていきます。「中村区社協は地域の支援機関、団体と関係性を築いてきました。その強みを生かして、支援の制度からこぼれ落ちてしまう人を支えていく仕組みを作りたい」と村田さん。

定期的に行われる重層的支援会議には、複数の相談支援機関が参加し、ケースごとに支援プランの協議などを行います。「ケースへの社協の動きを共有できると同時に、各機関がお互いにこんな機能があると分かります。結果的にみんなの相談能力が上がり、中村区全体のチーム力向上になります」と竹田さん。

## 中村区独自の 「スマイルサポート事業」



スマイルサポート

中村区には18の学区がありますが、区社協の学区担当者は地域と強いつながりを持っています。民生委員などの会議に出て、困りごとなどを拾い上げ、包括的相談支援チームと一緒に問題解決に向けて考えていきます。

「アウトリーチ事業」はこのような潜在的ニーズを把握するための取り組みで、中村区では主に2つの取り組みを進めます。1つ目の「住環境整備のための相談」は、中村区社協が令和2年から独自で行ってきた「スマイルサポート事業」を継続したもの。中村区は古い家屋が多く、住環境が悪化（ゴミ屋敷、家具や設備の故障や損壊、害虫など）している上に、住民の方が制度の狭間に陥ったり、支援拒否をされている場合があります。事業ではそうした住宅の環境改善を福祉の専門職と住環境整備の団体が連携して実施し、その後の継続的な生活の相談支援を行います。

スマイルサポート事業では不要品処分や害虫駆除、水回りなど住環境整備で関わる専門業者へ中村区社協の「パートナー企業・団体登録」をしてもらえるよう呼びかけています。専門業者が仕事に訪れた際に気になった世帯を紹介してもらったり、ケース会議へ出席してもらって専門家ならではのアドバイスをもらうのが狙いです。

スマイルサポート事業を当初から担当してきた竹田さんは、「専門業者の知恵と社協の専門性が一緒になると、どちらにもメリットがある。今後はもっとパートナー企業を増やしたい」と話されていました。

アウトリーチ事業の2つ目は「食を届ける支援」です。区社協では、以前から企業やメーカーからフードロスについて相談を受けたり、実際に多くの食品が寄付されています。その食品を、食の支援を受けたいという困窮家庭につなぐのはもちろん、有効に活用する仕組み作りも計画

しています。例えば子育て世代の相談、訪問のきっかけづくりや、つながりを維持するために食品を届けることも検討中です。対面できれば、本人の健康状態や困りごとが把握できると共に、信頼関係を築き、次の支援につなげることもできます。

## 外出のきっかけとなる「交流拠点」整備の予定

さらに、中村区では「参加支援事業」として「つながりづくりの交流拠点」を設ける予定です。区内に1カ所、空き家かマンションの一室を借りて、引きこもりの方や不登校気味の中高生などが外出のきっかけとなるような、気軽に来られ、相談もできるような場とします。さらに地域のコミュニティースペースとし、社会との接点や地域との出会いの拠点になることを目的とします。

## 8050問題を未然に防ぐため、若者支援に注力

令和3年12月までに寄せられた約30件の相談の内訳は、住環境の悪化が11件、若者の不登校や引きこもりなどの支援が8件、8050世帯や50代などの引きこもりが5件などでした。社協は高齢者の支援が中心と思われがちですが、子ども分野の支援機関との関係づくりにより若者についての相談も増えてきています。

そのため包括的相談支援チームの今後の方針としては、「若者支援にも力を入れたい」と村田さん。現在の8050問題は、当事者へ若い頃から支援をしていけば、引きこもりや孤立化を防げたかもしれないため、「早期発見、早期対応をしたい」。そのために「つながりづくりの交流拠点」が生かせたらと話していただきました。

今年1月からチームに加入した貞末さんは、「地域とつながりのある部署は初めて。この人に相談したいと思われるようになりたい」と抱負を語っていただきました。